

マチオモイ 当尾通信

創刊号

平成 27 年 7 月 26 日
木津川市マチオモイ部
観光商工課

木津川市にマチオモイ部誕生

木津川アート 2012 から 3 年。木津川市に「マチオモイ部」が誕生しました。

「マチオモイ」という言葉は、東日本大震災のあった 2011 年より、全国各地のクリエイター（デザイナー・編集者・作家など創造的な仕事をしている人）が中心となって、それぞれの思いが詰まった町を自分だけの目線で切り取り、冊子や映像で紹介する展覧会で使われてきた言葉です。

この展覧会は「my home town わたしのマチオモイ帖」プロジェクトとし



て、これまで東京や大阪をはじめ様々な場所で開催されてきました。まちを愛おしみ、人の繋がりを大切にするこのような取り組みが、今日全国的に広がりを見せており、現在 1000 帖以上のマチオモイ帖が生まれています。木津川アートに携わったクリエイターも、当尾地域の皆様との交流、絆や風景などを当尾帖という冊子にまとめ「マチオモイ帖プロジェクト」に参加しています。「マチオモイ」という言葉には、そこに暮らす人たちの、人の繋がりや、まちに対してのやさしい気持ちが込められています。

木津川市がこの言葉を使うのは、自分を育んでもくれたまちや、大切に思うまちの魅力にあらためて気づいたり、まだ知らない価値を発見したりしながら、まちづくりを市民と行政が一緒になって進めていきたいという思いを込めたものです。

当尾地域の皆様と行政が一緒になって、当尾地域の活性化を図っていきたいとの思いから、「マチオモイ部」の誕生に併せて当尾通信を再開することとしました。

現在木津川市では、全国的にも「ウォーキングの聖地」として認められる地位を当尾地域において獲得したいとの思いから、当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会を立ち上げ、検討を進めています。

この地域力活性化検討委員会での協議状況や、当尾地域のこぼれ話など、身近な話題を当尾通信に掲載していきたいと考えていますので、お付き合いをお願いします。

マチオモイ部の紹介

マチオモイ部は、生活環境部観光商工課と建設部農政課により構成しています。文化財や景観、農産物や伝統工芸など、市の魅力を市民の皆様と共有し、地域力の向上に活かしていきたいと考えています。有害鳥獣対策など、従前からの業務も引き続き担当しています。

観光商工課

観光や商工業の振興などを所管します。観光係と商工係の2係で職員は課長を含めて1人で頑張っていきます。

農政課

農林水産業の振興や土地改良事業などを所管します。農業振興係と農業土木係の2係で職員は課長を含めて11名で頑張っていきます。

木津川アートから次のステップへ 当尾地域力活性化検討委員会

木津川アートでの「おもてなしの心」や、市内で一番観光客が訪れていることなど、当尾地域の特性を活かした取組みを通じて、当尾の地域力を元気にできなかいか「当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会」を立ち上げて検討をしています。

委員会には、当尾地域にお住まいの方をはじめ、地域の良さを異なる視点から見ていただくため、大学の先生などにも参加いただいています。

今後、この委員会での意見などもお知らせするなか、当尾地域を今以上に、多くの笑顔が集う場にしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。



アート作品の修復について



木津川アートでお馴染み、「尻枝の飛びだしほうやクン」、最近見ないなあとお思いの方も多いと思います。現在作家の小川しゅん一さんが修復してくださっています。壊れた作品を引き取りに当尾に来られた際、小川さんはその他の飛びだし坊やクンたち一つ一つを綺麗に拭き、透明ラッカーで表面保護のメンテナンスもしてくださいました。「峯林のお ばあちゃん（高去）、お元気ですか～？」「いや～、来てくれはって嬉しいわ～」、明るい声が飛び交いました。

壊れた作品を預かってくださった吉岡さん（尻枝）の竹林では、タケノコ堀を楽しんだり……、今でも当尾の方々と作家さんの暖かい交流は続いている。